

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493400046
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	グループホームみんなの家・横浜瀬谷
訪問調査日	平成20年9月5日
評価確定日	平成20年10月29日
評価機関名	ナルく神奈川福祉サービス第三者評価事業部

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1493400046
法人名	株式会社ウイズネット
事業所名	グループホーム みんなの家・横浜瀬谷
所在地	〒246-0004 横浜市瀬谷区中屋敷2-6-15 (電話) 045-306-0630

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	〒223-0058 横浜市港北区新吉田東5-76-35		
訪問調査日	平成20年9月5日	評価確定日	平成20年10月29日

## 【情報提供票より】(平成20年8月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 6 人, 非常勤 9 人, 常勤換算	12.1 人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷 金	○有( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 120,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	350 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1,350円

### (4) 利用者の概要( 8月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	8 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	68 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	港北メディカルクリニック、デンタルオフィス横浜
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◇事業所は相模鉄道瀬谷駅からバスで5分の閑静な住宅地にあり、公園も近く、利用者の散歩コースになっている。  
 ◇「地域と共に安心して安全な環境を作る」の理念のもとに、地域住民との交流を大切しながら、利用者に「ここが安心して暮らせるわが家」と思って頂けるように努力している。  
 ◇毎月1回、全員でケアカンファレンスを開いている。6ヶ月ごとに介護計画の見直しを行い、職員、家族、医師の意見を取り入れている。職員全員が法人の介護計画研修を受け、見直しの重要性和必要性を学んでいる。  
 ◇「重度化した場合の対応に係る指針」があり、入所時に利用者・家族に説明している。利用者が重度化した場合は、医師、家族、事業所間の連絡をして適切な対応をしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ・地域との交流を深める課題について、町内会の集会や行事への参加、ボランティアの受入れなど、積極的に取り組んでいる。 ・同業者との交流を深める課題について、横浜市のグループホーム協会に加入し、瀬谷区合同の運営推進会議を通じて、同業者との交流を試みている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ・法人の研修委員会に参加したホーム長が、事業所内で自己評価の目的・意義についての勉強会を開催した。その上で全職員が自己評価票に記入し、ホーム長がフロア別にまとめ、その結果を職員に説明した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ・運営推進会議年4回開催している。うち1回は瀬谷区内グループホームと合同で、3回は同一法人グループホーム上瀬谷と合同で行った。出席メンバーは町内会長、民生委員、地域住民、家族、地域包括支援センター職員である。 ・町内会集会への参加、防災マップの活用、緊急時の町内会協力体制などの提案があり、前向きに取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ・家族会を年2回、行事に合わせて開催している。家族の来訪時に利用者の様子を報告し、家族の意見・要望を聴取し、サービスに反映している。 ・保護者や利用者から気軽に苦情・意見を述べて貰うために投書箱を玄関に置いているが、今までに苦情は出ていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ・町内会に加入して地域社会との交流を深めている。 ・地域行事の文化祭に参加し、フラダンスなどのボランティアを受け入れた。 ・散歩では利用者が地元の人に元気に挨拶したり、近くの農家から野菜を貰うなど、地域住民との交流を深めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・当事業所の理念は、「地域と共に安心で、安全な環境を作る」を、平成18年事業所開設時に全職員で作上げた。 ・地域住民との交流を大切にしながら、利用者一人ひとりに「ここが我が家である」と思って安心して暮らしていただけるように努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念をスタッフルームに掲示して、職員一人ひとりが日々の仕事の中で具現化できるように意識づけている。 ・理念に基づいた支援サービスのあり方について、毎月のフロア会議で話し合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・事業所として町内会に加入し、会合にはホーム長が出席し、地域行事の文化祭に参加したり、地域の方々のフラダンス・ボランティアを受け入れて、地域社会との連携を深めている。 ・利用者は散歩の行き帰りに地元の方々と挨拶を交わしたり、農家から野菜を貰うなど、地域住民個々との交流も深まっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価記入に先立って全職員を対象に、自己評価の意義や目的について勉強会を開いた。 ・その上で全職員が自己評価票を記載し、ホーム長がフロア別にまとめた。 ・昨年の外部評価結果は運営推進会議で報告し、利用者家族がいつでも見ることができるよう事業所玄関に掲示している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議は年4回開催し、うち1回は瀬谷区内グループホームと合同で、3回は同一法人のグループホーム上瀬谷と合同で行っている。</li> <li>・出席メンバーは町内会長、民生委員、地域住民、家族、地域包括支援センター職員である。</li> <li>・町内会会議への参加、防災マップの活用、緊急時の町内会の支援体制などを話し合い、実現に向けて取り組んでいる。</li> </ul>		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険の更新、利用者の状況報告など、瀬谷区役所の担当者と日常の交流・連携が図られている。</li> <li>・瀬谷区役所からの紹介で「はまちゃん体操」のビデオを購入し、利用者・職員共に実施している。</li> </ul>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、利用者の生活状況を記載した「一言通信」を発行し、預り金収支帳や写真を添えて家族へ送付している。</li> <li>・利用者の体調変化など急変事には直ちに電話で家族へ伝えている。</li> </ul>		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族会を年2回、行事開催時に行っている。</li> <li>・家族の来訪時には、利用者の様子を報告したり、家族からの意見・要望をお聞きして、日常サービスに反映している。</li> <li>・気軽に苦情・意見が言えるように投書箱を設置しているが、今までに苦情の申し出はない。</li> </ul>		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当職員が転勤などで交代するときは、後任者への引継をしっかりと行って利用者に安心して頂くように話している。</li> <li>・更に不安を感じず利用者に対しては、他の職員も積極的に声をかけるようにしている。</li> </ul>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・採用時研修の外、法人内職階別研修として、ケアプランの作成・リスクマネジメント・事業所間の交換研修などの研修システムがあり職員が参加している。 ・研修参加者は研修結果をフロア会議で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・横浜市グループホーム連絡会に加盟している。 ・瀬谷区の9グループホーム合同の運営推進会議（年1回）を通じて、同業者と交流をしている。	○	・地域同業他者とのネットワーク作り、勉強会、相互見学会などの機会をつくり、サービスの質の向上に取り組むことを期待します。
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入所前にホーム長が本人と家族に面談し、家庭での状況や課題などを把握している。 ・利用者と家族は入所前に施設を訪問して、他の利用者と交流する機会を設けている。 ・入所後は事前に聴取した事項を支援サービスに反映させ、徐々に馴染んでもらっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・一人ひとりの得意なことや入所前に楽しんできたことを、事業所の中でも続けてできるように支援する中で、縫い物、料理の盛り付け、目上への言葉使いなど利用者から学ぶことが多い。 ・夜勤時は、利用者から職員の体調を気遣う言葉を貰い感謝することがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・お茶の時間、洗濯物のたたみ、入浴など職員が利用者と日々の生活を一緒に過ごす中で、利用者の気持ちを汲み取るように努めている。 ・利用者一人ひとりの意向はスタッフノート、個人記録に記載し、その情報を職員間で共有するように努め、カンファレンスを通じて日常サービスに反映している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・毎月1回、全職員でケアカンファレンスを開き、担当者が把握した本人の意向、家族来訪時に聴取した家族の意見、医師意見などを話し合っ、その結果を反映して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画は、6ヶ月ごとに定期見直しをしているが、定期見直し時期に至る前に、介護認定区分が変更されたときや状況が変化したときは、その都度介護計画を見直している。 ・見直した介護計画は家族に説明している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・家族が利用者の通院付添いができないときは、法人内の居宅介護支援事業所に依頼し、通院の支援をして貰っている。 ・家族や地域住民からの介護保険に関する相談に応じている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・事業所の協力医療機関は、港北メディカルクリニック(内科、月2回往診)、デンタルオフィス横浜(毎週1回往診)である。 ・利用者の入所前のかかりつけ医の受診についても、本人や家族の希望に応じて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・入所時に「重度化した場合の対応に係る指針」に基づき、利用者が重度化した場合は医師、家族、事業所間の連絡を密に行い、適切に対応することを説明している。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・プライバシー保護マニュアルがあり、入社時研修の外、諸会議の場を利用して職員に説明をしている。 ・個人情報に関する書類は、全て施錠保管している。 ・調査当日、利用者の尊厳を傷つけたりプライバシーを損ねる言動は見られなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日々の暮らしについて、利用者のペースを尊重して、入浴、散歩なども利用者の体調、意向を確認してから誘導・支援している。 ・毎日を縫い物、編み物、コースター作りなど、利用者の思いに添って過ごせるように支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・盛付け、配膳、片付けなどを、利用者が無理のない範囲で参加できるように配慮している。 ・利用者の嫌いなメニューの場合は、他のものを提供するなど、食事を楽しんで貰うために臨機応変に対応している。 ・職員も利用者と一緒に楽しく話しながら食事をするように配慮している。		

みんなの家 横浜瀬谷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週2回以上の入浴を目標とし、利用者の体調に配慮しながら、希望に添って日や時間を柔軟に決めている。</li> <li>・入浴を拒否しがちな利用者には、家族から差し入れの孫のメッセージを含めた入浴セットを活用するなど、工夫している。</li> </ul>		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸の好きな利用者は、花壇の水遣りやゴーヤ、ナス、シントウなどの収穫を楽しんでいる。</li> <li>・季節毎に、夏祭りでのバーベキュー大会や、9月のお月見なども行っている。</li> <li>・職員とカラオケに行く利用者や、電子ピアノの演奏をする利用者もいて、それぞれの喜びや楽しみを支援している。</li> </ul>		
25	61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気が良ければ、盛夏を除いてほとんど毎日、近くの公園まで散歩に出かけている。車椅子の利用者も参加している。</li> <li>・その他、職員と買い物に出かけたり、花見、外食バイキングなど毎月イベントを計画して外出頻度を多くするように配慮している。</li> </ul>		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所敷地前はバス道路で危険のため、安全を考慮して玄関は施錠をしている。</li> <li>・1、2階のフロア出入口は施錠をしていないので利用者は自由に行き来している。</li> <li>・希望者は居室の中から施錠できるが、外から解錠できる。</li> </ul>		
27	71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災マニュアル、緊急連絡網、消火器、消防署への緊急通報設備が完備している。</li> <li>・H20年5月に瀬谷消防署の指導で、利用者全員参加で避難訓練を行った。</li> <li>・1日分の非常食(飲料水、乾パン)を備えている。</li> </ul>	○	運営推進会議で町内会から防災時の協力体制を提案されているので、実現に向けて推進することを期待します。



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・全員の摂食量、水分摂取量を記録し、水分の摂取不足の利用者には水分補給をしている。 ・食事の献立は法人の管理栄養士が作成し、栄養バランス、カロリー量、塩分量を管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり 人の					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関、居間、台所、浴室、トイレ、廊下は清掃が行き届き、採光も適切で快適な空間となっている。昼食時はテレビの音量を下げる配慮をしている。 ・利用者の希望で居間の一角に畳を敷いて楽しめるように工夫している。 ・季節毎に正月飾り、おひな祭りの雛飾り、七夕の竹飾り、お月見のススキ、クリスマスツリーを飾ったりして楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・仏壇、テレビ、使い慣れたダンスや机を持ち込み、家族や本人の写真、カレンダー、時計、その他趣味のもの飾って、安心して落ち着いて過ごせる居室にしている。 ・入り口に大きな字で利用者の名前を掲示して、自分の居室を識別しやすいようにしている。		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみんなの家 横浜瀬谷
(ユニット名)	1ユニット
所在地 (県・市町村名)	横浜市瀬谷区中屋敷2-6-15
記入者名 (管理者)	谷田 美雪
記入日	平成 20 年 8 月 9 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に沿った理念を作っています。理念に基きいつでも地域との触れ合いができるようにしています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	いつでも目の届く所に貼ってあるので、会議の場所で理念の共有をしています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会や地域との運営推進会議で地域に沿う理念を決め実践していることをお伝えしています。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご利用者様の散歩の際、市民菜園で花を頂いたりイベントの時はお知らせのチラシを近所の方や会社に配りホームに来て頂く様お話しています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の会議にはホーム長が参加し行事予定の報告を受け可能な限り参加しています。<地域ケアプラザ文化祭参加等>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	専門的な研修にスタッフが参加し新しいスタッフには必ず情報をおとしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年提出した自己評価表の取り入れたい内容を確認し実行しています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	上瀬谷と合同で行い、地域の方々にホームでの状況を報告し又、出席者の方々にも意見を頂いています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所に出向きご入居者様の健康維持のお話をし、はまちゃん体操のビデオを購入しました。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はいませんが後見人制度のマニュアルを用意し対応の体制をとっています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社にて「安全対策委員会」があり月1回担当スタッフが会議に出席し得た情報をスタッフにおとしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書に基き説明をしています。ホームの職員だけではなく、営業担当に同席してもらい説明の不足がないか確認しています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者様と1対1でお話をする時間を作りスタッフがホーム長に情報を伝えています。その情報はカンファレンスで話し合っています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭管理については収支帳にてご自宅にご郵送し、健康状態については往診時の診断をすぐお電話にて連絡しています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族会でご意見を個々にお伺いしています。又、家族の方には苦情相談ができるよう連絡先をお伝えしております。頂いた意見は書面に残し、営業部へ報告します。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1度のスタッフ会議でスタッフから挙げられた意見をホーム長が受けホーム運営に役立てています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>毎月勤務シフト表を作り、イベントやレクリエーションの時はスタッフに協力をもらっています。スタッフ同士いつでも連絡がとれるように連絡網を配っています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>定期的にスタッフと個別面談を行いスタッフの勤務に対する要望を聞いています。交代のときは後任者への引継ぎをしっかり行い安心して生活ができる事をお伝えしています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回アビアントの研修内容が送られてくるのでスタッフに周知し、受講できるようにしています。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>中屋敷地域ケアプラザと交流を持ち行事の参加、ボランティアさんの情報を頂いています。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスが溜まらない様に面談を行っています。又、ご利用者様とのレクリエーションで外食やカラオケに行きスタッフもホームを離れ気分転換ができるようにしています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>スタッフ個人の得意分野を見つけ得意なことを他スタッフに伝えることによって更なる向上心を持ってもらうようにしています。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>実調時にできるだけご本人から直接不安な事、心配事、体調の事を伺いその方の生活全てを受止める努力をしています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>実調時にキーパーソンの方を中心にお話を伺い介護において困っている事、ホーム入居にあたっての心配事を傾聴し細かく説明し実調後もすぐに連絡を取れるようにしています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実調時に現在の環境、経済面等のお話をします。他施設等の利用が必要な時は知っている情報をお伝えし御相談にのっています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用の前に御家族と一緒にホームに遊びに来て頂き、他利用者様とお茶を召し上がって頂く等、少しでも「安心」をお伝えできるようにしています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人一人の情報の中から「得意な事」や今まで楽しまれていたことを継続して出来る様に支援しています。レクリエーション等でスタッフと共に楽しんでいます。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の情報を共有することを基本と考え、なるべくホームに来て頂きケアの方向などを話し合っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族にはご本人の御家族に対する気持ちを電話等でお伝えしています。時には直接お話される事で安心されています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様の協力も頂き外出等で馴染みの場所に行く機会を作っています。又、御家族や知人へのお手紙のやりとりを勧め関係を大事にして頂いています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者様同士の関係を把握すること。スタッフ間で情報を共有しています。トラブル等があった時はスタッフが間に入りお気持ちを傾聴します。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去契約時に御家族様と今後のお話をさせて頂き、いつでも連絡がとれるようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々会話の中でその方のお気持ちを傾聴し記録に残し、カンファレンスなどでその方の情報を把握しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調表の中での情報をスタッフ一人一人が読み込み、その方の今までの生活の把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活記録、健康管理表などの情報をスタッフが把握し、情報の共有をしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には御本人の意向、御家族様の意向を聞き取り、無理のない介護計画を作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しが必要になった時には御家族様と連絡を取り、医療情報も共有し介護計画の見直しについて話し合い作成しています。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の会話などそのままを記録におとし、食事などの気付きなども記録に記入しスタッフ間で共有しています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その都度ご要望があった時には食事内容、入浴時間等必要なサービスの提供をしています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営会議などで民生委員、消防の方をお招きしご利用者様にあった支援の方法を話し合い日々の生活に取り入れています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	通院時やレクリエーションの交通などの情報を取り入れ、その方に合った必要な情報を支援に取り入れています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	情報の収集には中屋敷ケアプラザに出向き運営会議にも包括支援担当の方にも来て頂き情報を共有しています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族様が希望された専門医とは往診医との連絡を密にし、スムーズな受診が出来るよう支援しています。		

みんなの家 横浜瀬谷(1ユニット)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診医と相談し専門医の紹介をして頂いています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月2回の訪問看護にて健康管理をして頂いており、訪問看護師の方と一緒に体操等をして頂き、コミュニケーションを取っています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院に出向き関係者から情報を頂き入院先の主治医との面談により得た情報をホーム往診医に伝えています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時にはお話しています。主治医が終末期と判断された時は御家族様と相談しながら支援致します。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	該当する方がいませんが主治医との連携にて対応させて頂きます。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	「介護サマリー」を作成し、直接移られる先の相談員の方とお話をしています。移られた後も御家族様と相談し情報を提供します。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報を掲示する場合はイニシャルで対応しています。<～ちゃん等と呼ぶことのないようスタッフ間で徹底しています>	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	ヤクルト販売などでご自身が納得された物を買って頂き、スタッフ主導にならないケアを心掛けています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、入浴希望は必ず御本人の気持ちを傾聴し、時間などを決めていきます。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	御家族の協力を頂き御本人の望まれる行き付けの美容室等に行って頂いております。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー表を掲示し、献立表の記入、盛り付け、片付け、ご利用者様の意向を取り入れスタッフと共に行っています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	御家族の了解を頂きその方が望まれる嗜好品を用意しています。	

みんなの家 横浜瀬谷(1ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中はできるだけトイレにて排泄が出来るように声掛けにて対応しオムツやリハパンの利用を減らしています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調を一番に考えご利用者様から入浴したい時に声をかけて頂けるようにしています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	今までの生活内容を把握し無理して起きていたりする事がないう御自由に休んで頂く様声掛けをしています。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションでも個人が楽しめることを支援しています。(買い物・カラオケ等)家事を手伝って頂く時もスタッフと楽しい会話をしながら無理のないよう心掛けています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望があれば財布を所持させています。買い物などにはスタッフが付き添い好きな物を買って頂けるよう支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に出かけます。個人レベルにより回数が変わらないように散歩の回数を把握しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	御家族様の協力を頂きながら車での外出や買い物等、楽しんで頂いています。		

みんなの家 横浜瀬谷(1ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節のお便り等はスタッフと共に御家族様に一言直筆で書いて頂きます。電話も希望時に直接かけて頂いています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	リビング、居室でゆっくりと面談して頂いています。時間の心配もされないようにお声かけし安心して時間が過ごせるよう心掛けています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしていません。「安全対策委員会」で拘束に関する研修を行い参加したスタッフが他スタッフに周知しマニュアルを用意し理解を深めています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	声かけ、見守りにて日中の安全を心掛けています。1F・2Fに行き来出来る事で閉塞感を少なくしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間帯においてもケアの統一をしています。1F, 2F夜勤者の連携もできるように情報を共有しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物(包丁等)は鍵のかかる場所に保管しています。洗剤等は一人一人の状態に合わせてスタッフと一緒に使って頂く等気をつけています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフが「ヒヤリハット」の情報を共有出来るように目につく所に掲示し同じ事故が起こらないよう注意しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	不調の時は起こりうる急変の様子等を主治医から聞き、すぐ対応出来るようにスタッフ間で共有しています。急変マニュアルも貼り出しています。		消防訓練で救命訓練をしていきます。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を頂き、消防訓練をを行っています。又、運営推進会議等でも災害時の協力体制の協力、確認を行っています。		町内会(民生委員)と今後の対応について話し合っています。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	御家族様とは細かく連絡を取っています。環境、ケアを変えるときにも御本人様、御家族様に確認をとり実施しています。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しでも早く変化に気付き、主治医に指示をもらえるようにバイタル測定時の情報をスタッフで共有し記録に残しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については必ずスタッフ間で確認し誤薬を防いでいます。主治医以外の通院には、薬の情報を必ず持参します。薬剤師からの情報も取り入れます。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	週1回のヤクルト販売にて乳製品を購入し楽しみながら召し上がって頂いています。健康体操も取り入れて体を動かして頂いています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科衛生士の指示により一人一人の口腔ケアを心掛けています。御本人の磨き残しに注意しています。口腔体操も行っています。		

みんなの家 横浜瀬谷(1ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取、水分はチェック表にて把握し1日を通してスタッフが周知できています。又、水分量が少ない時は種類を変えたりし水分をとって頂いています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルにて対応しています。変化があった時はすぐ主治医に連絡し指示を頂きます。感染症が発生したときは営業部に報告し横浜市への報告を実施しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	決められた場所に収納し、調理部スタッフと共に管理しています。冷蔵庫の中の個人の商品も期限を冷蔵庫に提示し管理しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を飾り明るい雰囲気を中心掛けています。雑草等にも気をつけ掃除を行っています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わって頂くようにご利用者様と一緒に掲示物を作成しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞等を一人でゆっくりと見て頂けるような机を置き好きな時に好きな場所で過ごして頂けるように心掛けています。		

みんなの家 横浜瀬谷(1ユニット)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前と生活環境が変わらないように使い慣れた品等を持ちこんで頂き、御本人の希望で「のれん」等を使いプライバシーを守っています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	「におい」はスタッフが玄関に入った時に気を付け換気等に対応しています。窓の開放についてはご利用様に確認し体調に支障がないように心掛けています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「ヒヤリハット」等から一人一人の生活での危険を把握し御家族様と相談しながら環境を考えています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「トイレ」が分からない方には大きく表示し「トイレ」「便所」等分かりやすい表示をしています。居室についても迷わないように目印をつけています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	洗濯はスタッフとご利用様が一緒に干しベランダの空間はお茶を飲んだり、体操をしたり、花を植える等楽しんで頂いています。		



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

みんなの家 横浜瀬谷(1ユニット)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

CD、民謡等の音楽を取り入れながら楽しく過ごす時間が増えています。ベランダを有効活用し、暖かい日は足浴、体操、ティータイムなどに活用し喜ばれています。庭での野菜の収穫も皆さん楽しまれています。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみんなの家 横浜瀬谷
(ユニット名)	2ユニット
所在地 (県・市町村名)	横浜市瀬谷区中屋敷2-6-15
記入者名 (管理者)	谷田 美雪
記入日	平成 20 年 8 月 9 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に沿った理念を作っています。理念に基きいつでも地域との触れ合いができるようにしています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	いつでも目の届く所に貼ってあるので、会議の場所で理念の共有をしています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会や地域との運営推進会議で地域に沿う理念を決め実践していることをお伝えしています。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご利用者様の散歩の際、市民菜園で花を頂いたり近所のお店でおやつなどスタッフと一緒に気軽に買い物をしています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の会議にはホーム長が参加し行事予定の報告を受け可能な限り参加しています。<地域ケアプラザ文化祭参加等>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>専門的な研修にスタッフが参加し新しいスタッフには必ず情報をおとしています。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>昨年提出した自己評価表の取り入れたい内容を確認し実行しています。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>上瀬谷と合同で行い、地域の方々にホームでの状況を報告し又、出席者の方々にも意見を頂いています。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>区役所に出向きご入居者様の健康維持のお話をし、はまちゃん体操のビデオを購入しました。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在利用されている方はいませんが後見人制度のマニュアルを用意し対応の体制をとっています。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>会社にて「安全対策委員会」があり月1回担当スタッフが会議に出席し得た情報をスタッフにおとしています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基き説明をしています。ホームの職員だけではなく、営業担当に同席してもらい説明の不足がないか確認しています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様と1対1でお話をする時間を作りスタッフがホーム長に情報を伝えています。その情報はカンファレンスで話し合っています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理については収支帳にてご自宅にご郵送し、健康状態については往診時の診断をすぐお電話にて連絡しています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族会でご意見を個々にお伺いしています。又、家族の方には苦情相談ができるよう連絡先をお伝えしております。頂いた意見は書面に残し、営業部へ報告します。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度のスタッフ会議でスタッフから挙げられた意見をホーム長が受けホーム運営に役立てています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	フロアスタッフにて話し合いながら調整しています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期的にスタッフと個別面談を行いスタッフの勤務に対する要望を聞いています。交代のときは後任者への引継ぎをしっかり行い安心して生活ができる事をお伝えしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回アビアントの研修内容が送られてくるのでスタッフに周知し、受講できるようにしています。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>中屋敷地域ケアプラザと交流を持ち行事の参加、ボランティアさんの情報を頂いています。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスが溜まらない様に面談を行っています。又、ご利用者様とのレクリエーションで外食やカラオケに行きスタッフもホームを離れ気分転換ができるようにしています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>スタッフ個人の得意分野を見つけ得意なことを他スタッフに伝えることによって更なる向上心を持ってもらうようにしています。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>実調時にできるだけご本人から直接不安な事、心配事、体調の事を伺いその方の生活全てを受止める努力をしています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>実調時にキーパーソンの方を中心にお話を伺い介護において困っている事、ホーム入居にあたっての心配事を傾聴し細かく説明し実調後もすぐに連絡を取れるようにしています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実調表からの情報を把握しフロア会議とうにてスタッフが対応しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用の前に御家族と一緒にホームに遊びに来て頂き、他利用者様とお茶を召し上がって頂く等、少しでも「安心」をお伝えできるようにしています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	御本人の出来ること、望むことを支援することでスタッフも共に良い関係を築いています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の情報を共有することを基本と考え、なるべくホームに来て頂きケアの方向などを話し合っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族にはご本人の御家族に対する気持ちを電話等でお伝えしています。時には直接お話される事で安心されています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様の協力も頂き外出等で馴染みの場所に行く機会を作っています。又、御家族や知人へのお手紙のやりとりを勧め関係を大事にして頂いています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	居室に入られる時間が多いのでおやつ作りや掲示物を作るなど皆様と楽しめる時間を作っています。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去契約時に御家族様と今後のお話をさせて頂き、いつでも連絡がとれるようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々会話の中でその方のお気持ちを傾聴し記録に残し、カンファレンスなどでその方の情報を把握しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調表の中での情報をスタッフ一人一人が読み込み、その方の今までの生活の把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活記録、健康管理表などの情報をスタッフが把握し、情報の共有をしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には御本人の意向、御家族様の意向を聞き取り、無理のない介護計画を作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しが必要になった時には御家族様と連絡を取り、医療情報も共有し介護計画の見直しについて話し合い作成しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入浴時の対応などにおいて色々な工夫をし介護計画にも取り入れています。(入浴セット・声かけ)		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その都度ご要望があった時には食事内容、入浴時間等必要なサービスの提供をしています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営会議などで民生委員、消防の方をお招きしご利用者様にあった支援の方法を話し合い日々の生活に取り入れています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	通院時やレクリエーションの交通などの情報を取り入れ、その方に合った必要な情報を支援に取り入れています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	情報の収集には中屋敷ケアプラザに出向き運営会議にも包括支援担当の方にも来て頂き情報を共有しています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族様が希望された専門医とは往診医との連絡を密にし、スムーズな受診が出来るよう支援しています。		

みんなの家 横浜瀬谷(2ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報を掲示する場合はイニシャルで対応しています。<～ちゃん等と呼ぶことのないようスタッフ間で徹底しています>	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	洗濯などでもご自身で決められ出来ないところだけ支援しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、入浴希望は必ず御本人の気持ちを傾聴し、時間などを決めていきます。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	御家族様と買い物に出かけられ御好きな服など買ってこられます。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー表を掲示し、献立表の記入、盛り付け、片付け、ご利用者様の意向を取り入れスタッフと共に行っています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコ、コーヒーなど御好きな物を楽しまれています。	

みんなの家 横浜瀬谷(2ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	御家族様に御相談しながら気持ち良い排泄が出来るように支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間が重なったときはスタッフが間に入り対応しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	今までの生活内容を把握し無理して起きていたりする事がないう御自由に休んで頂く様声掛けをしています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションでも個人が楽しめることを支援しています。 (買い物・カラオケ等)家事を手伝って頂く時もスタッフと楽しい会話をしながら無理のないよう心掛けています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くの商店にスタッフと買い物に行くことが楽しみになっています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花の水遣り、野菜収穫にて1Fの花壇に下りて頂き、気分転換をして頂いています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	御家族様と共に車での買い物、ドライブ等を楽しまれていきます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節のお便り等はスタッフと共に御家族様に一言直筆で書いて頂きます。電話も希望時に直接かけて頂いています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	リビング、居室でゆっくりと面談して頂いています。時間の心配もされないようにお声かけし安心して時間が過ごせるよう心掛けています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束していません。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全に注意しベランダの開放を行っています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間帯においてもケアの統一をしています。1F, 2F夜勤者の連携もできるように情報を共有しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物(包丁等)は鍵のかかる場所に保管しています。洗剤等は一人一人の状態に合わせてスタッフと一緒に使って頂く等気をつけています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフが「ヒヤリハット」の情報を共有出来るように目につく所に掲示し同じ事故が起こらないよう注意しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	不調の時は起こりうる急変の様子等を主治医から聞き、すぐ対応出来るようにスタッフ間で共有しています。急変マニュアルも貼り出しています。		消防訓練で救命訓練をしていきます。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を頂き、消防訓練をを行っています。又、運営推進会議等でも災害時の協力体制の協力、確認を行っています。		町内会(民生委員)と今後の対応について話し合っています。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	御家族様とは細かく連絡を取っています。環境、ケアを変えるときにも御本人様、御家族様に確認をとり実施しています。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しでも早く変化に気付き、主治医に指示をもらえるようにバイタル測定時の情報をスタッフで共有し記録に残しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定時薬以外での服用に関してスタッフ間で周知し主治医にも情報を送っています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	週1回のヤクルト販売にて乳製品を購入し楽しみながら召し上がって頂いています。健康体操も取り入れて体を動かして頂いています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科衛生士の指示により一人一人の口腔ケアを心掛けています。御本人の磨き残しに注意しています。口腔体操も行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医からの指示の把握をし栄養摂取に充分に気を付けています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルにて対応しています。変化があった時はすぐ主治医に連絡し指示を頂きます。感染症が発生したときは営業部に報告し横浜市への報告を実施しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	決められた場所に収納し、調理部スタッフと共に管理しています。冷蔵庫の中の個人の品も期限を冷蔵庫に提示し管理しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ご利用者様と掃除などを行っています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感を出すようにコーヒーを沸かししたり、花などを飾っています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを2台おき、好きな番組を一人で見れるような配慮をしています。		



みんなの家 横浜瀬谷(2ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前と生活環境が変わらないように使い慣れた品等を持ちこんで頂き、御本人の希望で「のれん」等を使いプライバシーを守っています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンなどで体調を崩さないように換気などに注意しています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒のリスクに対して環境に配慮しています。(配置がえ等)		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「トイレ」が分からない方には大きく表示し「トイレ」「便所」等分かりやすい表示をしています。居室についても迷わないように目印をつけています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに植木花を置き水遣りを楽しまれています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自立度が高い方が多いのでレクリエーションの中でカラオケ、外食等皆様楽しみにされています。カラオケなどでは感激で涙を流される場面もあります。